
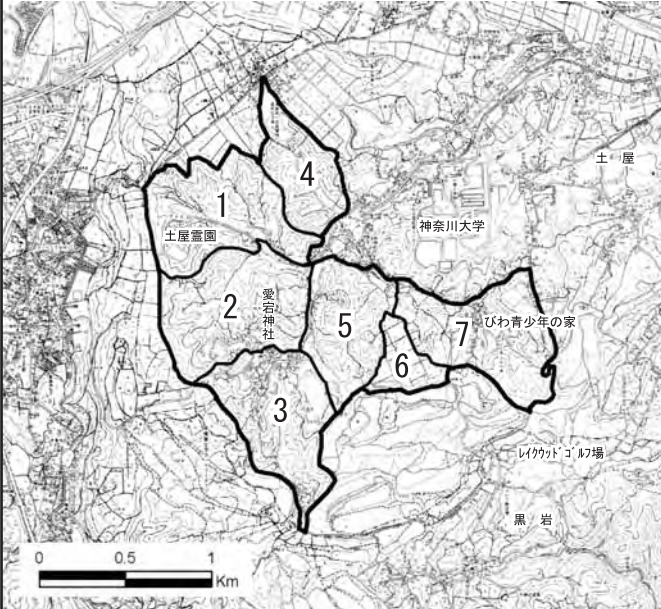


資料編 各地区の調査結果の詳細（地区別カルテ）

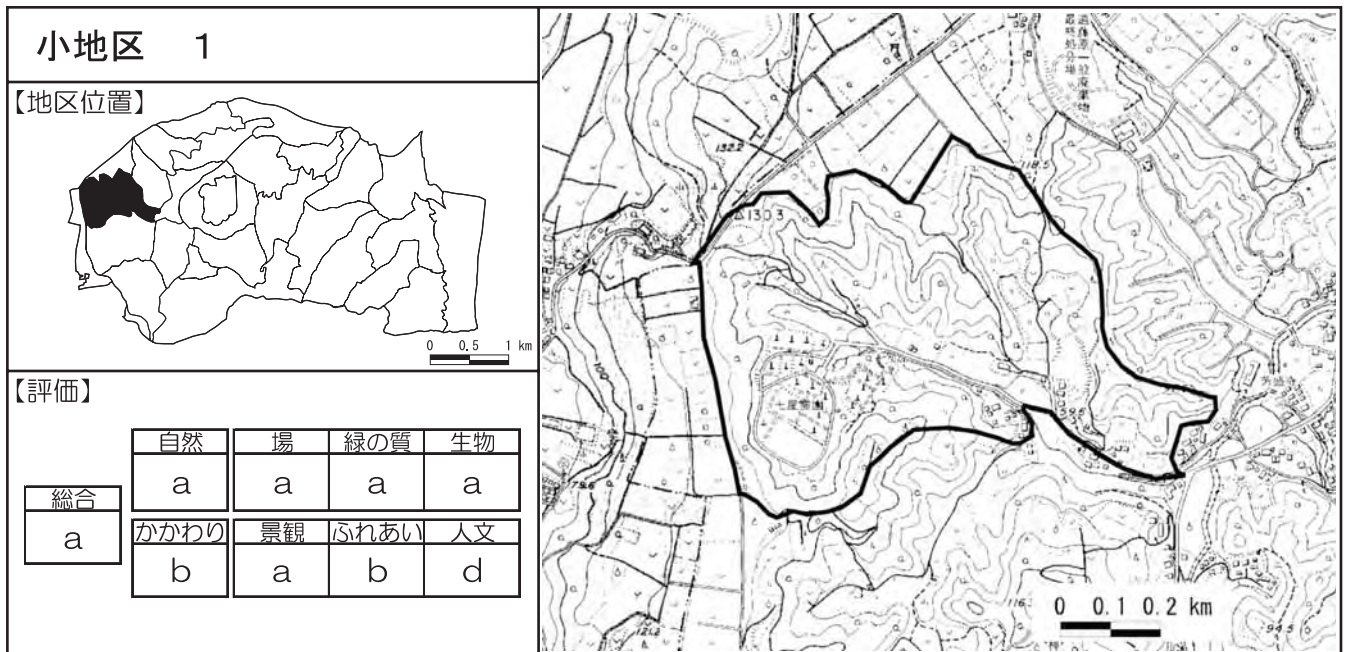
2005年（平成17年）人とのかかわり評価の基となった調査の結果を、各地区別に整理しました。また2004年（平成16年）の生物調査編の総評も再掲しました。

本ページより各地区の詳細を、大地区Ⅰ（座禅川上流の結果）、次に大地区のⅠに含まれる小地区（1～7）の順に記載しました。

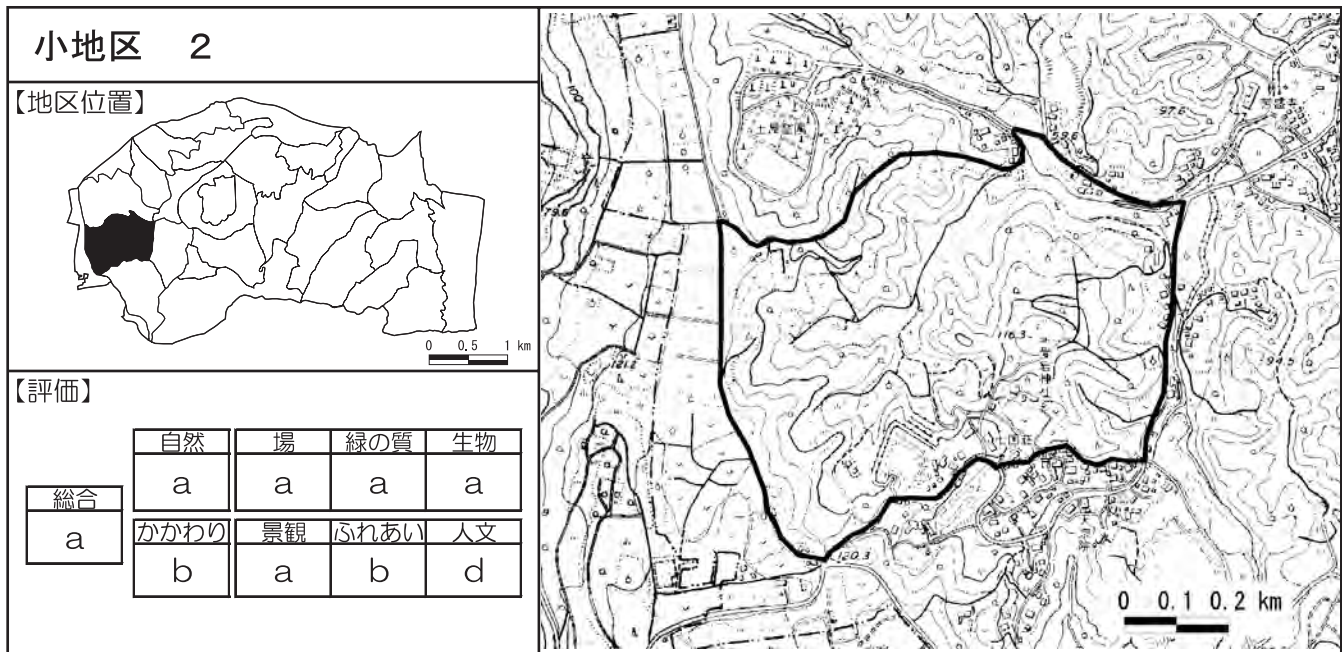
大地区Ⅰ 座禅川上流				
【評価】	自然	場	緑の質	生物
総合	A	A	A	A
A	人とのかかわり	景観	ふれあい	人文
	A	A	A	B
【地区位置】				
				

	内 容
総合評価	調査地域の中でも特に良好な自然と景観がみられる。これを背景にして、主要な人とのふれあいの場となっており、人文資源も多い。里山らしさが特によく残されている。
自然評価 総 評	愛宕山周辺のまとまりのある樹林と、駒ヶ滝付近の谷戸の水田が混在した環境である。斜面には、二次林が広がり、林床の管理されたコナラ林も多くみられる。 樹林と水辺がセットで存在している環境を反映して、樹林、水辺、草地の指標種が豊富に生息、生育している。鷹取山山麓地区と並び、調査地域の中でも特に良好な里山の自然が残されている。
人との かかわり 評価総評	谷戸の樹林と農地を主体とする里山の景観がよく残されている。散策路が多く通過し、『平塚八景』に指定されてい展望地点、自然とのふれあい施設があり、地区のほぼ全域が自然観察場所として利用され、主要な人とのふれあいの場となっている。自然とのふれあい施設のひとつである「びわ青少年の家」は、2004年度（平成16年度）の利用者数が10,779人（男性5,392人、女性5,387人）であり、年間を通して利用されている。道祖神、水神、史跡、社寺、滝などの人文資源も多い。

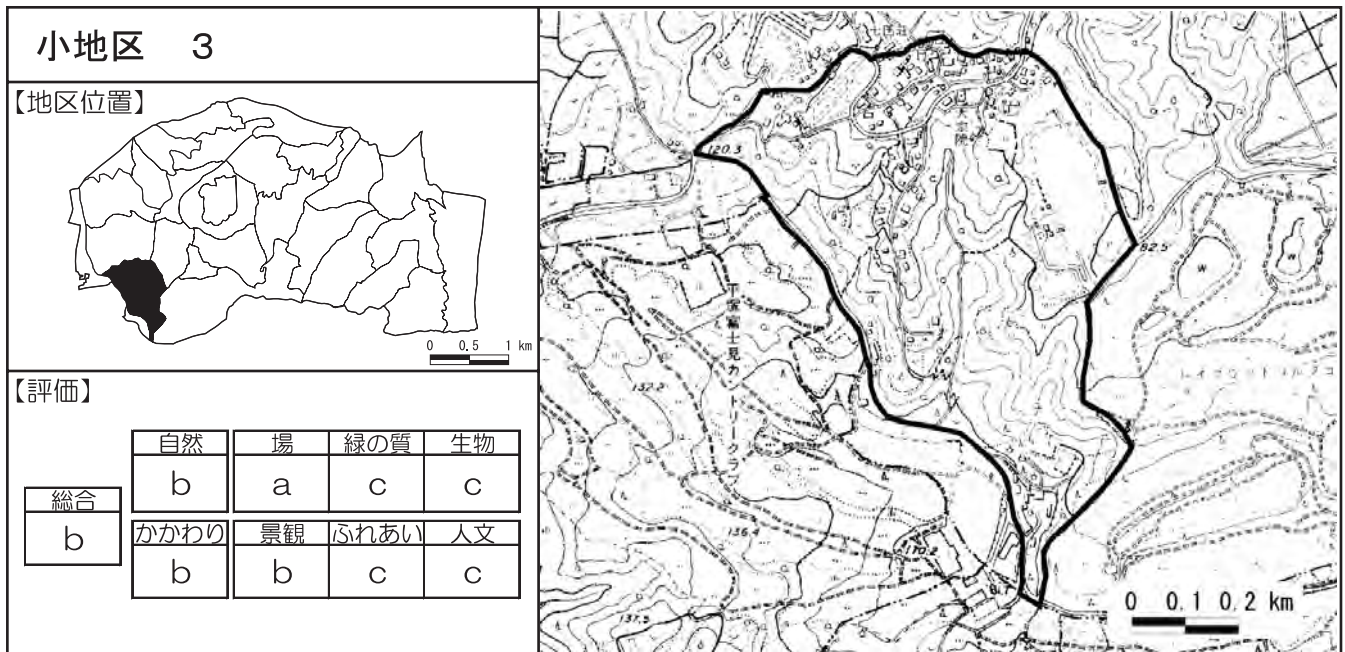
	内 容		
景 観	<p>里山景観要素の割合が 88.2%と高く、里山の景観がよく残されている。樹林が 54.8%と多く、その他、畑地 15.4%、古い集落の住宅地 7.9%、草地 7.2%などがみられる。</p> <p>地区の 73.7%が、地域外の都市景観が視界に入らない領域である。</p>		
ふれあい	<p>【散策路】『湘南ひらつかやすらぎ回廊』 (「川と緑のそよかぜロード」、「緑と文化の湘南丘陵の道」) 『関東ふれあいの道』</p> <p>【展望地点】『平塚八景』(「七国峠」)</p> <p>【自然体験フィールド】なし</p> <p>【自然観察場所】 地区の全域が、自然観察場所となっており、特に小地区1の駒ヶ滝や土屋霊園周辺、小地区2、5の愛宕山公園周辺、小地区7の琵琶周辺で利用されている。</p> <p>【自然とのふれあい施設】土屋霊園、愛宕山公園、びわ青少年の家</p>		
人 文	<p>【道祖神】県道 77 号線沿いを中心に、11 箇所ある。</p> <p>【水神】駒ヶ滝</p> <p>【史跡】長兵衛茶屋跡、琵琶の供養塚、琵琶の馬頭観音</p> <p>【保全樹】なし</p> <p>【指定文化財】なし</p> <p>【社寺】高来神社、愛宕神社、神明社、天宗院、白山神社、子ノ神神社、稲荷社</p> <p>【湧水】なし</p> <p>【滝】駒ヶ滝、尼ヶ滝</p>		
	 <p>04.10.15 撮影</p>	 <p>05.10.22 撮影</p>	 <p>05.09.17 撮影</p>
	愛宕山北側の谷戸	駒ヶ滝	愛宕神社
			 <p>04.11.02 撮影</p>
	樹林に生息するゴマダラチョウ	谷戸に生息するニホンアカガエル	道祖神



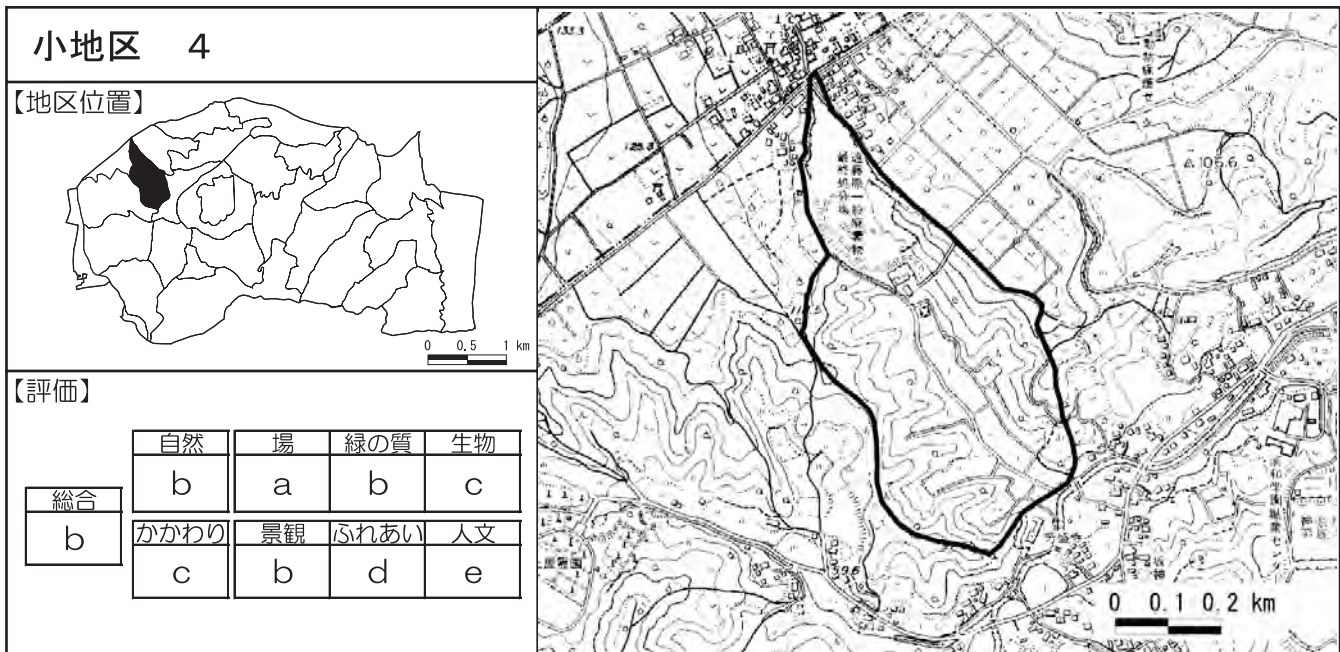
	内 容
総合評価	調査地域の中でも、特に良好な自然と景観がみられる。これを背景にして、主要な人とのふれあいの場となっている。里山らしさがよく残されている。
自然評価総評	座禅川集水域のまとまりある樹林は、地域の緑の中核となっている。 斜面には、二次林が広がり、管理されたコナラ群落（林床開放型）もまとまってみられ、低地には湿性植物群落や水田が分布する。樹林と水辺がセットで存在している環境を反映して、樹林、水辺、草地の指標種が豊富に生息、生育している。調査地域の中でも、特に良好な里山としての自然が残されている。
人のかかわり評価総評	谷戸の樹林と農地を主体とする、里山の景観がよく残されている。 散策路と土屋霊園があり、地区のほぼ全域が自然観察場所として利用され、主要な人とのふれあいの場となっている。 まとまった集落が存在しないため、人文資源は少ないが、地域のシンボルともいえる駒ヶ滝があり、水神や石塔が祀られている。
景観	里山景観要素の割合が 87.5%と高く、里山の景観がよく残されている。樹林が62.9%と多く、畑地が9.1%である。 地区の99.6%が、地域外の都市景観が視界に入らない領域である。
ふれあい	土屋霊園の西側に位置する遠藤原台地の道が、『湘南ひらつかやすらぎ回廊』の「緑と文化の湘南丘陵の道」に選定されており、丹沢山地が眺望できる。 自然とのふれあい施設としては、総面積の約3分の2の樹林を残し、散策路が設けられている土屋霊園があり、植栽されているスイセン、ヤマユリの見頃には多くの市民に利用されている。 地区のほぼ全域が、自然観察場所として利用されている。
人文	駒ヶ滝の脇の岩棚には、「明剣（みょうけん）大瀧神」などの水神や、石塔が祀られている。 社寺は大野氏一族の一名神社である高来神社がある。 滝は、高さ約10mの駒ヶ滝があり、通称「オタキサン」と呼ばれている。



内 容	
総合評価	調査地域の中でも、特に良好な自然と景観がみられる。これを背景にして、主要な人とのふれあいの場となっている。里山らしさがよく残されている。
自然評価 総 評	座禅川集水域のまとまりある樹林は、地域の緑の中核となっている。 斜面には二次林が広がり、低地には湿性植物群落や水田が分布する。樹林と水辺がセットで存在している環境を反映して、生息にまとまりある多様な環境を必要とする猛禽類をはじめ、樹林、水辺、草地の指標種が豊富に生息、生育している。調査地域の中でも特に良好な里山としての自然が残されている。
人との かかわり 評価総評	谷戸の樹林と農地を主体とする、里山の景観がよく残されている。 散策路と愛宕山公園があり、地区のほぼ全域が自然観察場所として利用され、主要な人とのふれあいの場となっている。 まとまった集落が存在しないため、人文資源は少ないが、道祖神や愛宕神社が存在している。
景 観	里山景観要素の割合が 93.2%と高く、里山の景観がよく残されている。樹林が 59.2%と多く、その他、畑地 13.9%、草地 11.3%などがみられる。 地区の 87.1%が、地域外の都市景観が視界に入らない領域である。
ふれあい	遠藤原台地の道が、『湘南ひらつかやすらぎ回廊』の「緑と文化の湘南丘陵の道」に選定されており、丹沢山地が眺望できる。 自然とのふれあい施設としては、愛宕山公園があり、ソメイヨシノ、ヤエザクラなどの花見の名所として知られている。 地区のほぼ全域が、自然観察場所として利用されている。
人 文	道祖神は、県道 77 号線沿いに 3 箇所ある。 社寺は愛宕山公園の山頂に、上惣領地区の鎮守の愛宕神社がある。

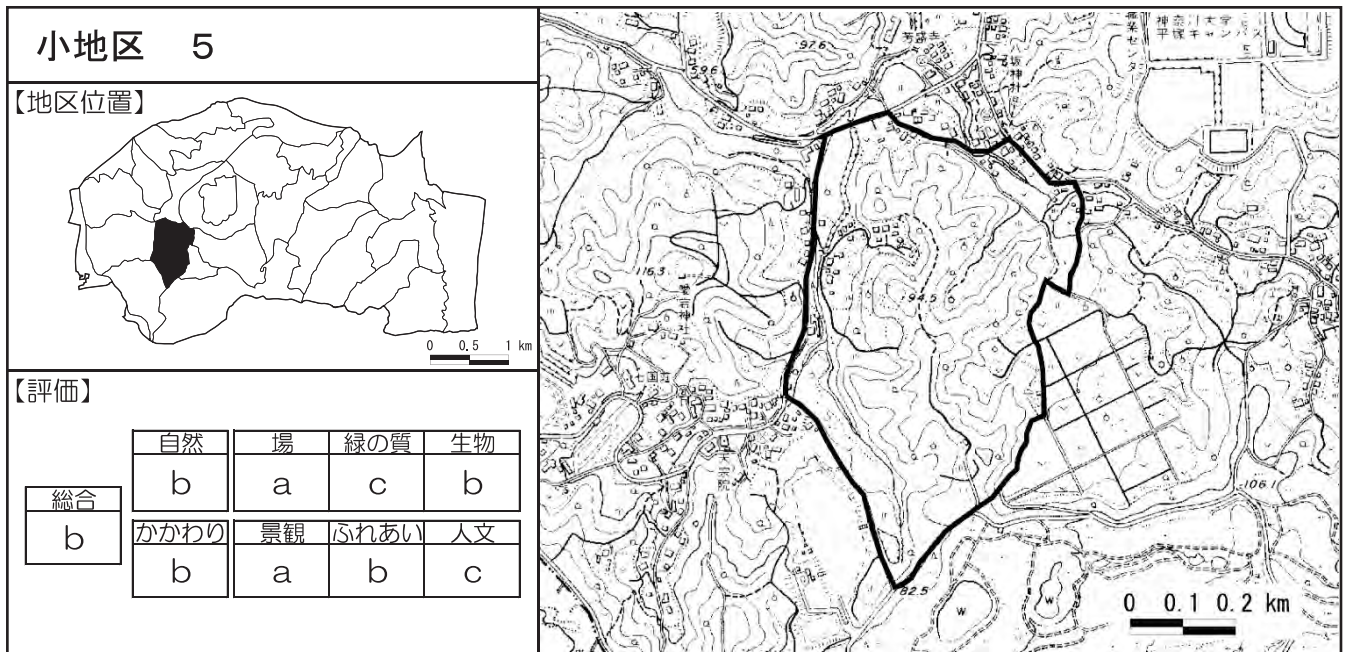


内 容	
総合評価	比較的良好な自然と景観がみられる。人とのふれあいの場としての利用や人文資源もある。里山らしさが比較的良好に残されている。
自然評価 総合評価	座禅川集水域のまとまりある樹林は、地域の緑の中核となっている。斜面には二次林が広がり、小規模な谷戸の低地には、水田放棄植物群落やヨシ群落などの湿性植物群落もみられる。樹林、水辺、草地の指標種が生息、生育しており、比較的良好な里山の自然が残されている。
人との かかわり 評価総評	樹林と集落が近接した里山の景観がよく残されている。 散策路、『平塚八景』に指定されている展望地点があり、地区の一部で自然観察場所としての利用もなされ、人とのふれあいの場となっている。 道祖神、長兵衛茶屋跡、神明社、天宗院などの人文資源がある。
景 観	里山景観要素の割合が 82.8%と高く、里山の景観がよく残されている。樹林が 52.9%と多く、その他、古くからの集落の住宅地 15.5%、新しい住宅地など 13.0%などがみられる。 地区の 30.7%が、地域外の都市景観が視界に入らない領域である。
ふれあい	地区の西側と東側のゴルフ場沿いの道が、『湘南ひらつかやすらぎ回廊』の「緑と文化の湘南丘陵の道」に選定されている。 七国峠が、『平塚八景』のうちの「七国峠、遠藤原」に選定されており、かつては、伊豆や武蔵などの七国が一望できたといわれている。 地区北側の天宗院周辺や、県道 77 号線沿いが、自然観察場所として利用されている。
人 文	道祖神は、県道 77 号線沿いに 2 箇所ある。 史跡は、長兵衛茶屋跡がある。 社寺は石黒氏一族のお稲荷さまの神明社、県道 77 号線沿いに天宗院がある。

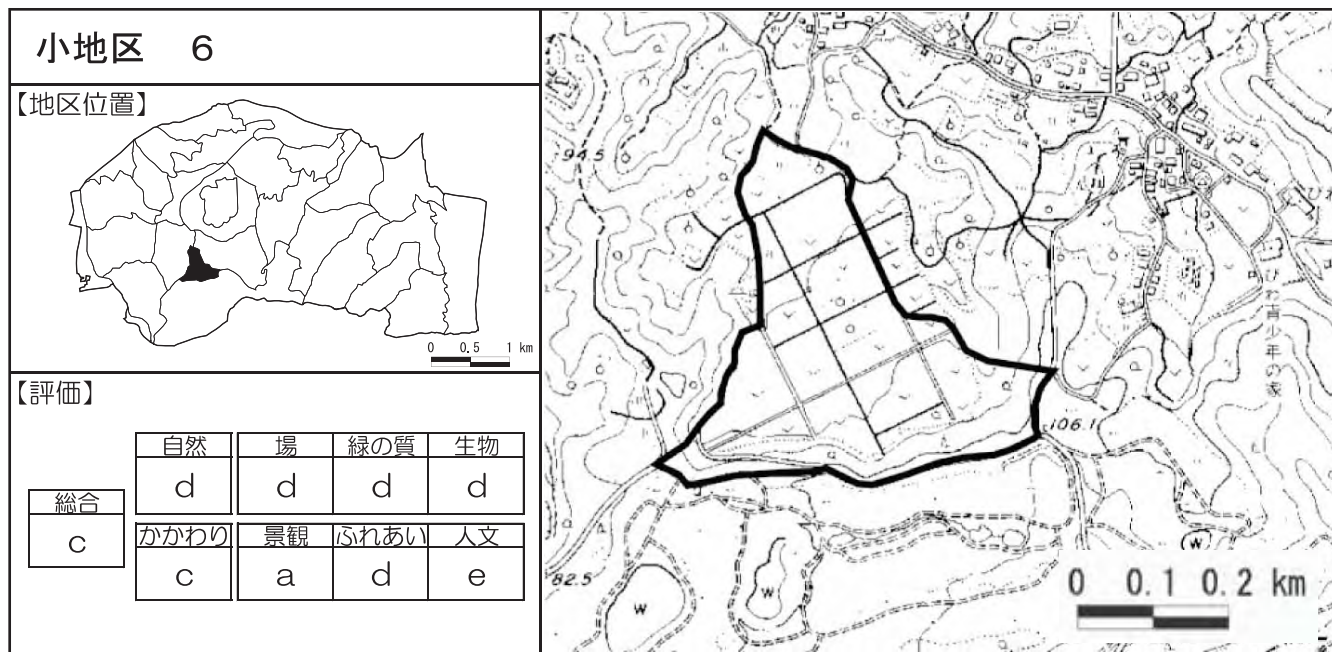


内 容	
総合評価	比較的良好な自然と景観がみられる。人とのふれあいの場としての利用や人文資源は少ないが、里山らしさが比較的良好に残されている。
自然評価 総評	谷戸の源頭部に廃棄物最終処分場が存在するものの、開析谷 ^{*11} 斜面にまとまりある樹林が存在しており、地域の緑の中核となっている。 斜面には二次林が広がり、谷戸の低地には水田放棄植物群落や水田が分布する。樹林、水辺、草地の指標種が生息、生育しており、比較的良好な里山の自然が残されている。
人との かかわり 評価総評	谷戸の樹林と農地を主体とする里山の景観が比較的良好に残されている。散策路や施設などはないが、地区の一部で自然観察場所としての利用がなされている。 まとまった集落が存在しないため、人文資源は少ない。
景 観	里山景観要素の割合が 70.5%とやや高く、里山の景観が比較的良好に残されている。樹林が 56.7%を占め、廃棄物最終処分場 14.6%、耕地整備された水田 7.9%などがみられる。 地区の 100%が、地域外の都市景観が視界に入らない領域である。
ふれあい	地区の中央を通る道が、自然観察場所として利用されている。
人 文	道祖神は、遠藤原一般廃棄物最終処分場の北側に 1 箇所ある。

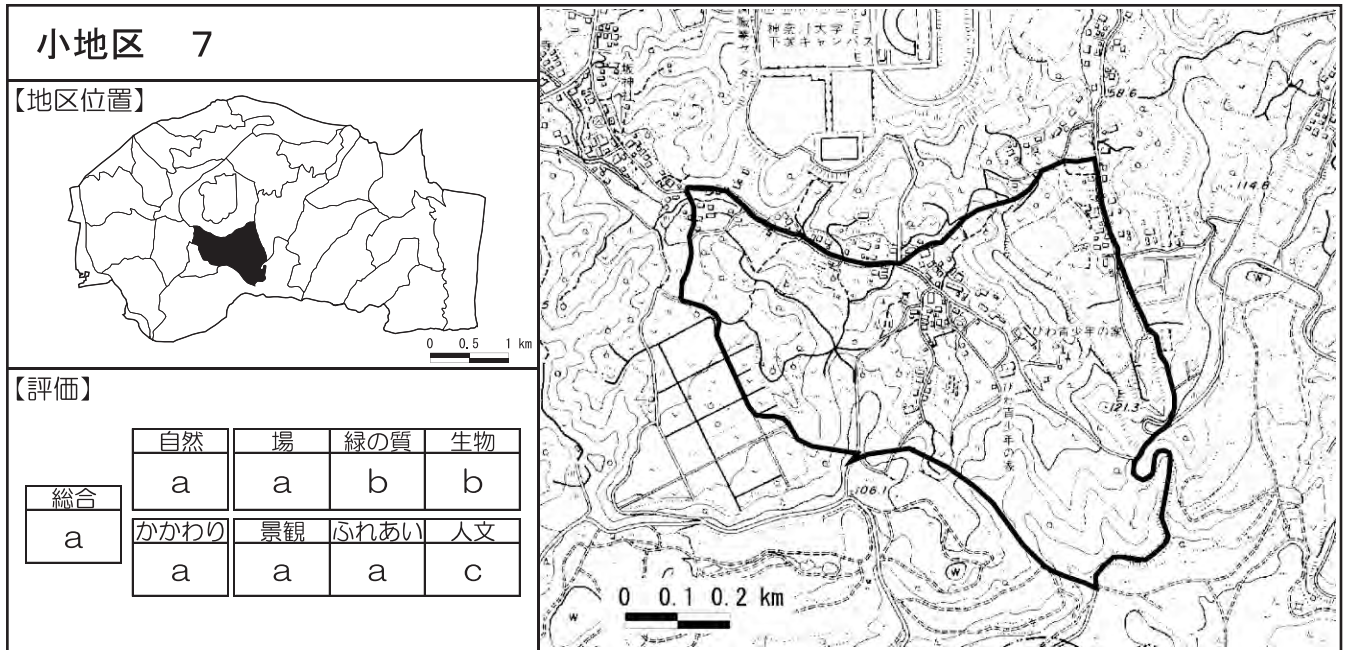
*11 開析谷：台地縁が浸食されて形成された谷をいう。



内 容	
総合評価	比較的良好な自然と景観がみられる。これを背景にして、主要な人とのふれあいの場となっており、人文資源もある。里山らしさが比較的良好に残されている。
自然評価 総合評価	丘陵斜面にまとまりのある樹林が存在しており、地域の緑の中核となっている。 斜面には二次林が広がり、小規模な谷戸の低地には、水田放棄植物群落や水田もみられる。樹林、水辺、草地の指標種が生息、生育しており、比較的良好な里山の自然が残されている。
人との かかわり 評価総評	樹林と農地を主体とする里山の景観がよく残されている。 散策路があり、地区の一部で自然観察場所としての利用もなされ、主要な人とのふれあいの場となっている。 道祖神や隠れた名所ともいえる尼ヶ滝などの人文資源がある。
景 観	里山景観要素の割合が 90.6%と高く、里山の景観がよく残されている。樹林が 51.3%と多く、その他、草地 13.5%、畑地 10.4%などがみられる。 地区の 85.5%が、地域外の都市景観が視界に入らない領域である。
ふれあい	芳盛寺から琵琶に至る道が、『湘南ひらつかやすらぎ回廊』の「川と緑のそよかぜロード」、地区の南側のゴルフ場沿いの道が、「緑と文化の湘南丘陵の道」に選定されている。 地区西側の県道 77 号線沿いの斜面、地区南側と東側の道が自然観察場所となっている。
人 文	道祖神は、県道 77 号線沿いに 4 箇所ある。 滝は、地区南側に二段で落差が約 8m の尼ヶ滝がある。



内 容	
総 合 評 価	農地を主体とする自然と景観がみられる。人とのふれあいの場としての利用や人文資源は少ないが、里山らしさがある程度残されている。
自然評価 総 評	畑地で占められており、生物も草地の指標種が主体である。
人との かかわり 評価総評	農地を主体とする里山の景観がよく残されている。 散策路があり、地区の外周は自然観察場所として利用されている。 集落が存在しないため、人文資源はない。
景 観	里山景観要素の割合が 96.0%と高く、里山の景観がよく残されている。畑地が 68.8%と多く、畑地をとり巻くように樹林 25.2%がみられる。 地区の 62.1%が、地域外の都市景観が視界に入らない領域である。
ふれあい	地区南側のゴルフ場沿いの道が、『湘南ひらつかやすらぎ回廊』の「緑と文化の湘南丘陵の道」に選定されている。 地区外周の道全てが自然観察場所となっている。
人 文	人文資源はない。



内 容	
総合評価	良好な自然と景観がみられる。これを背景にして、主要な人とのふれあいの場となっており、人文資源もある。里山らしさが特によく残されている。
自然評価 総合評	丘陵斜面にまとまりのある樹林が存在しており、地域の緑の中核となっている。 斜面には二次林が広がり、生息にまとまりのある多様な環境を必要とする猛禽類をはじめ、樹林、水辺、草地の指標種が生息、生育しており、里山の自然が残されている。
人との かかわり 評価総評	樹林と農地、集落が近接した里山の景観がよく残されている。 散策路とびわ青少年の家があり、地区の一部が自然観察場所として利用され、主要な人とのふれあいの場となっている。 道祖神、馬頭観音、供養塚、白山神社、子ノ神神社、稲荷社などの人文資源がある。
景 観	里山景観要素の割合が 94.9%と高く、里山の景観がよく残されている。樹林が 52.6%と多く、その他、畑地 25.7%、古くからの集落の住宅地 11.8%などがみられる。 地区の 52.9%が、地域外の都市景観が視界に入らない領域である。
ふれあい	琵琶を通る道が『湘南ひらつかやすらぎ回廊』の「川と緑のそよかぜロード」、 「緑と文化の湘南丘陵の道」に選定されており、地区の東側から妙圓寺に至る道が『関東ふれあいの道』に選定されている。 自然観察場所は、丘状地形の尾根道や、びわ青少年の家周辺が利用されている。 自然とのふれあい施設は、びわ青少年の家がある。
人 文	道祖神は、地区南側のゴルフ場から子ノ神神社に至る道に 1 箇所ある。 史跡は、丘状地形の尾根道に、琵琶の馬頭観音や供養塚がある。 社寺は、一名神社の白山神社、琵琶の鎮守の子ノ神神社や稲荷社がある。

土屋のオオムラサキ

土屋の頭無（かしらなし）地区では、日本の国蝶であるオオムラサキが継続的に繁殖し、貴重な生息地として市民団体により観察が続けられていました。

1993年ごろから、毎年クヌギの樹液を吸汁していた様子が目撃されていました。この蝶も、近年、生息場所であった斜面林が伐採され、確認することができなくなっており、復元の手立てが急がれます。



オオムラサキ ♂



越冬中の幼虫



オオムラサキ ♀

駒ヶ滝

西部丘陵地域には、霧降りの滝、駒ヶ滝、尼ヶ滝の3つの滝があります。その中でも、水田のある谷戸の丘陵地に位置する駒ヶ滝は、座禅川の水源ともなっており、生活とのかかわりが深い滝です。

駒ヶ滝は、通称「オタキサン」の名で親しまれており、かつて熊野神社の神事で流鏝馬が行われていたとき、神馬（しんめ）をこの滝で清めたことが名前の由来といわれます。

以前は飛沫をあげるほどの水量があり、滝のそばに祀られている不動様で、雨乞いが行われたり、神仏への祈願や祭りのときに冷水を浴びて身を清める水垢離（みずごり）の修行が行われていたようです。現在は水量が減り、幅約30cm、高さ約10mの細い滝になっています。

最近、地元の子供たちによって、源頭部にこれまで知られていなかった滝が発見され、話題を呼びました。

このように地域の自然や文化は、地元の人が長年愛着を持って守ってきたものです。マナーを守って訪れたいものです。



駒ヶ滝 2005年10月22日撮影



源頭部の滝 2005年10月22日撮影